生涯学習情報誌

フォンズ

第 34 号
2007年 4 月25日
発　行
常陸太田市フォンズ・ネットワーク
事務局　常陸太田市生涯学習センター内
〒313-0061
茨城県常陸太田市中城町3280番地
TEL 0294(72)8888
FAX 0294(72)8880

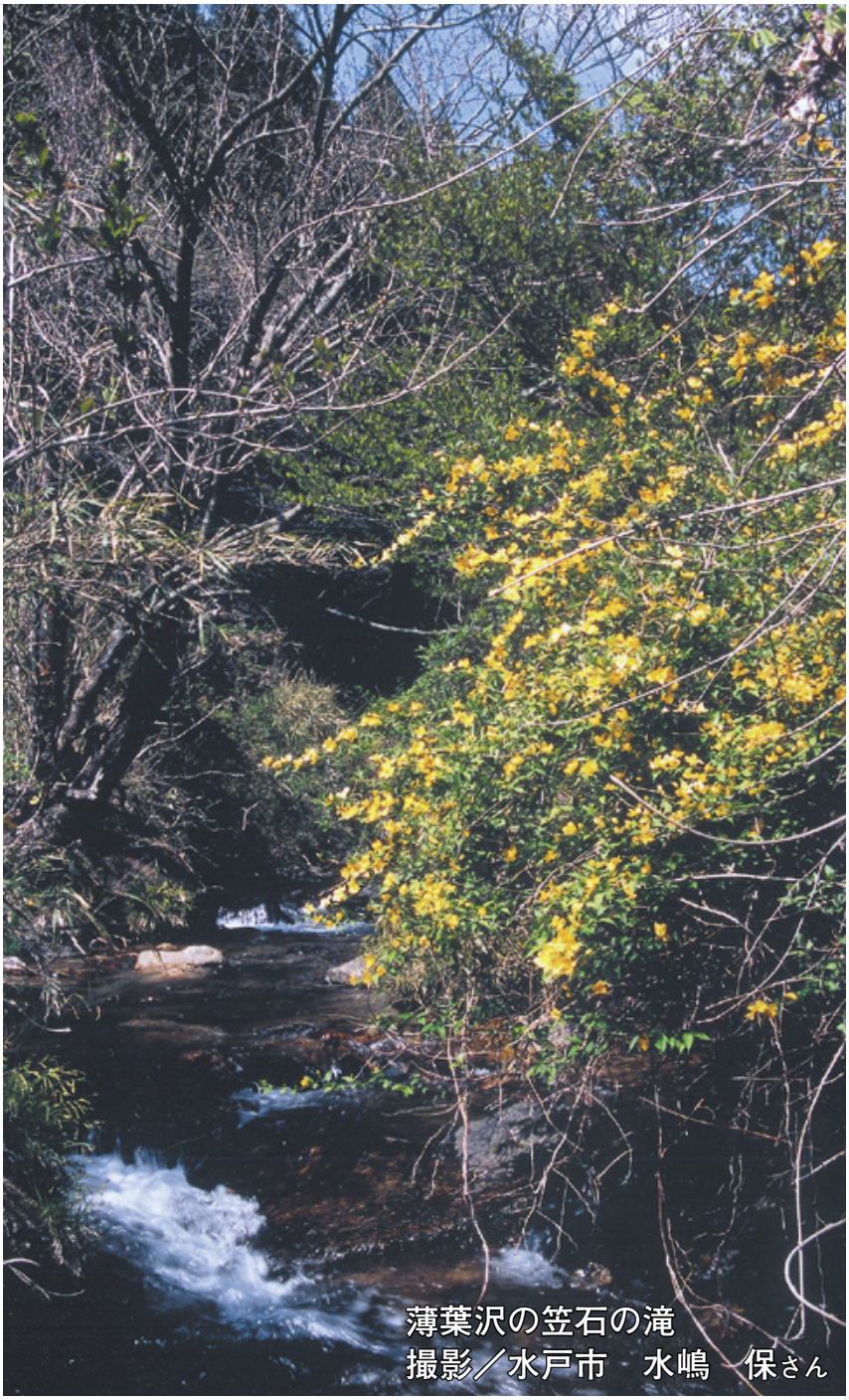
水の想い出 ㉝

いつもの川

子どもの頃、水とのふれあいは、いつも川でした。

とある土曜日、午前の学校を終え、以前から友達と計画していた里川釣行を決行した。昨日まで、遊び場はいつも源氏川だった。でも今日は、初めての里川。そこは、小さな子どもには、遠く冒険です。その日は、南風は強いが、暖かな陽射しの中、東田んぼの畦道をトコトコと歩き、ネコヤナギが芽吹いた里川に無事到着。目の前の流れは速く強く水がとてもきれいで、河原には、青く深い砂利取りの池が神秘的に透き通っている。いつもの川とはすべてが違っていた。その池の近くに釣り場を決め、いざ戦闘開始。しかし…釣れない。どうやっても釣れない。水と時間が一緒に流れ、霞がかった空が赤く染まる頃、強く吹いていた南風がぴたっと止み、水面は空を写し輝き、羽虫たちが一斉に水から飛び出し魚達が騒ぎだす。一転、釣れる。また釣れる。もう１匹、あと１匹とはしゃぐ中、突然吹き出す北風、水がざわつき河畔（かはん）の林が不気味に揺れる。「もう帰ろう」「そうだね」満足した二人は、慌てて堤を駆け上がると辺りはすっかり暗く、西の空に輝く金色の星と鯨ヶ丘の隙間にわずかに残った夕焼けが寂しい。そして、暗い細く長い畦道を、さらに強まった北風の中、夜の怖さと戦いながら無口に早足で帰った。

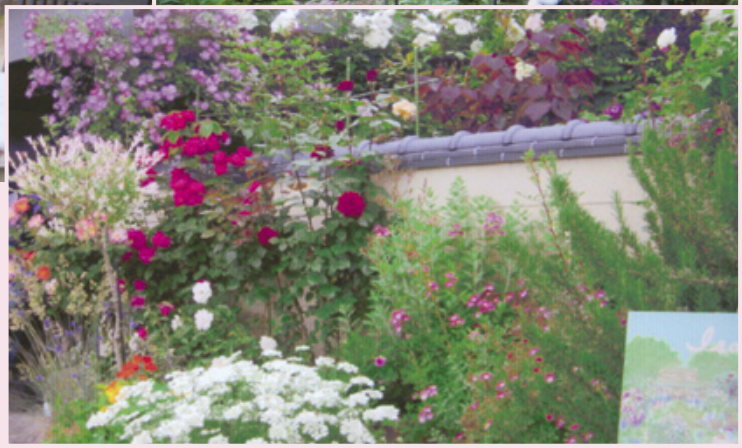
あの日から、いつもの川は、里川になりました。そして、今も、羽虫飛び交う夕暮れ時、竿を片手に毎年確実にきれいになってきている水と美しい魚達を求め、いつもの川を冒険しています。あの日のように。（加藤）



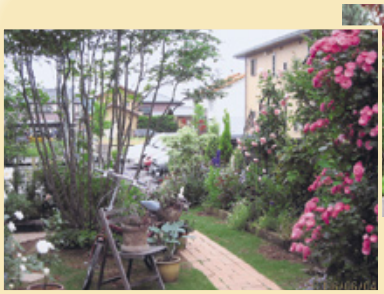
薄葉沢の笠石の滝
撮影／水戸市　水嶋　保さん

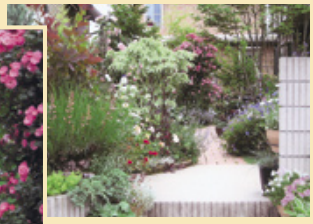
花に親しむ 土とふれあう 花ともだちのすすめ

春になると通りを歩く楽しみが増える。ただよう香りに引き寄せられ、ふりかえって見た庭先から顔をのぞかせる草花。花が咲くまでに、その花にかけられた人の手を思うと、花の美しさを味わう気持ちも違ってくる。花の種が風や鳥に運ばれて、遠い地で新しい芽がでるように「花」によって生まれた新しい縁をご紹介します。



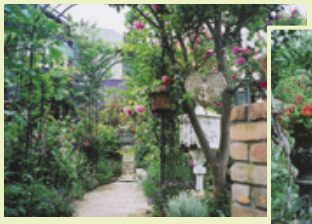
こちらは春友町の井坂美代子さん宅。「花を通してこんなにたくさんの友達ができるとは思ってもみませんでした。」オープンガーデンという自宅の庭を開放してお客様に見ていただく試みを５年ほど前から始められた井坂さん。花を通じてできたお友達と苗や育て方の情報を交換し、人のつながりから得る喜びをいっそう深められたそうです。オープンガーデンは人気が高く、思いがけないほどの多くの人が訪れることもあります。「見知らぬ人が大勢来るということに対して、ご近所の方が驚かれたり不便を感じられたりなさらないように」気をつけているそうです。





こちらは小林さんのお庭。オープンガーデンはなさっていませんが庭にある草花は無農薬で育てているそうです。「散水器は水の勢いが強すぎるのでジョーロを使いゆっくり時間をかけて水やりをします」「花の季節には毎日朝一番に庭に出ます」。慈しむということは、そのためにかける手間と時間に他ならないのかも知れません。

垣根を飾るつるバラの美しいFさんのお庭。整然と敷き詰められたレンガの小路にあふれる花が見事、外国の庭に迷い込んだような気分になります。庭造りを始められたのは奥様、その後ゆとりのできたご主人も一緒に10年近くご夫婦力を合わせて庭造りを楽しんできたそうです。
同じ目的・趣味を持ち、夫婦でともに過ごしてきた時間が庭の趣に味を添えているのに違いありません。



風にそよぐ花が好き　皆川弘子さん

個人的な趣味の世界かと思われるガーデニング、でも携わっている方たちはそれぞれに社会や人のつながりの大切さに思いを寄せながら花や土、自然とふれあう時間を作っていらっしゃいました。常陸太田市でオープンガーデンを初めて試みた皆川さん、「花」から広がる世界をお話してくださいました。

庭からはじまる社会貢献

イギリスでは庭の見学者から入園料を預かりそれをそのまま社会のために寄付するという仕組みがあることを知り、「自分の趣味を社会に役立てることができる」とオープンガーデンを始めたのは10年近くも前のことだそうです。「ゴールデンレトリバーを飼っていたので盲導犬に関心があり、お花を見に来てくださった方々に提供するお茶やお菓子に少しですが代金をいただき、それを栃木県にある盲導犬育成センターに寄付してきました。お菓子を焼いてくださる方や大勢の方のご協力を得て、7年ほど続けましたが思わぬ怪我をして今はオープンガーデンはお休みしています。」

子育てと同じ気持ちで

花を美しく咲かせるには、「花に足音を聞かせることが大切」だそうです。いつも気にかけ様子を見るために花のそばに足を運べば自然と害虫がよることも少なくなり、ちょっとした花の変化にも気づきやすくなります。「時間と手をかけたおいしい食事が子どもたちの健康をつくるのとまったく同じなんです」。高価な薬品や肥料に頼らずに「土」を大切にすることに気づいてから花の美しさが違ってきたそうです。そして土を大切に思う気持ちは当然のように環境への配慮に結びつき、社会・世界の循環やつながりへの意識がさらに大きくなっていったそうです。

西山の史跡・自然の中で

20年以上花を育ててきた経験から、「西洋の花でも種を取り寄せて自宅で咲かせることができます。でも、花の本当の美しさはその花の生まれた自然の中でこそ見つけられる」と気づかれたそうです。今はお住まいの西山の史跡や自然にそった庭作りをこころがけ、「西山公園から西山荘にかけて散歩する方がほぉ～っとできるような庭が目標です。」「どんな芽が出てどんな花を咲かせるのだろうとわくわくしながら待つ、花の種まきが大好き」なのだそうです。

さまざまな植物の種を内包する土、その土から季節がめぐると新しい命が芽生えてくる。当たり前のように思うその自然は、実は長い地球の歴史で培われたかけがえのないものです。その自然の状態は、今危ういバランスの上に在るのかもしれません。大きな世界のことを足元の庭からイメージできる、ガーデニングにはそんな可能性も含まれているのでしょう。そして、趣味を通じた人のつながりの暖かさも魅力のひとつなのでしょう。さぁ春らんまん、今年は花めでる人の仲間入り、いかがでしょうか。　（塩原慶子）

丹精をこめた花をいつでも誰にでも見られるよう育てている人、
ここではお二人の男性をご紹介します。

花咲き山をつくる　根本照夫さん
（西河内下町　塙バス停近く）

趣味が高じて

自宅の裏山南東に面した千坪の斜面をご自分の手で切り開き、各地から取り寄せたツツジを植え始めてから30数年かけて完成した見事なつつじ園が常陸太田の山間にあります。ツツジの種類は30種以上。赤色が生えるミヤマキリシマを始め、クルメツツジ、ヤシオツツジ、オオヤマツツジ、ヤマツツジなど、彩りも赤・白・ピンク・紫と変化にとんだ花々が楽しめます。

園内にはツツジの合間を縫うように小道が整備され自由に散策できるようになっています。最上峰にはベンチも用意され、上からの鑑賞も圧巻です。例年の花の見ごろは５月の連休ごろですが、今年は暖冬の影響で少し早めになるのではないかということで、４月下旬から５月いっぱいまで色の競演を楽しめます。

一般公開！

「始めのうちは友達と楽しんでいたのですがあまりにも見事に花を咲かせるので自分たちだけで楽しんではもったいないと思い一般に開放し始めました。」誰でも自由に立ち寄ってちょっと一休みしながら花で心を癒してもらおうと「一休園」と命名。来園者は人づてで年ごとに増え、新聞に載った昨年は1000人の来園者があったそうです。「今年も大勢のお客さまがみえることを願っています」　（石塚　弘）

バラを咲かせる　山田敏行さん

バラの咲く駐車場

常陸太田市役所近く、東バイパス・中江川沿いの、あるファミリーレストランの駐車場には「こんなところにどうして !?」と驚くほど美しいバラが毎年大輪の花を咲かせます。ここのバラを手入れをされているのが山田敏行さん。「バラを育て始めたのは家業のサッシ販売をしていた頃から、もう10年になります」。

四季咲き・つるバラ

花の根本を見ると、１本１本その花の名前や特徴を書いた札が立てられています。元々植木などの手入れがお好きだった山田さん、バラを育て始めたのは「花の美しさに惹かれたから」。バラは手間がかかり、手入れも難しいそうで、美しい花を咲かせるためには十分に手をかけなければなりません。「大変と思うときもありますが、きれいなバラの写真などを見るとつい苗が欲しくなって」。

つるバラは剪定、誘引などさらに手間がかかりますが、満開時の豪華さは見事というほかありません。

ご夫婦の共同作業

バラの手入れは山田さん、そしてその周りの雑草とりなどは奥様がされているそうです。ご自分の所有地ばかりでなく、近くのケヤキ並木の根元もきれいに手入れされ、通りの美しさまで際立っています。

（塩原　慶子）

市内の学校や地域で、花壇作りに励んでいる人達がいます。花壇作りを通した地域とのふれあい・見てくれる人への思い・咲いた時の喜び・仲間たちと流した汗などを大切にしながら「花と緑の環境美化コンクール」にも参加し、ファイトいっぱいです。手塩にかけられた花たちは、大切に次の世代へ受け継がれているのを感じました。（相原　早苗・鈴木　久美子）

団体の部　島フラワークラブ

町会長さんの「花いっぱい運動をやりましょう！」という事が始まりです。今年で５年目になりますが、毎年花壇に変化をもたせるよう心がけております。花苗植えは、子供会等町内の団体が参加して行っています。今年はさらに花壇を拡大しました。一度見に来てください。

大曽根　浩さん

地域の部　誉田公民館

「地域の人々が花に興味をもち、利用者のみんなに喜んでもらえたら」との気持ちで始めました。ノウハウやマニュアルも無く花壇を作ってきましたが、今では、有機栽培で土壌から研究しています。１つ１つの作業を着実に行っている事により100個のプランターに多種の花が咲きます。プランターに飾られなかった花は、公民館に来た方に無償配布しています。公民館周囲に花が次々と広がって、散歩するときの楽しみが増えました。

青木　義夫さん

フラワーロードの部　粟原百寿会

粟原百寿会は、地域の67名の老人会で、昭和40年頃からカンナを大事に受け継ぎ、現在まで植え替えを行いながら増やし育ててきました。フラワーロードづくりに古タイヤを利用し、花の種類も増やしました。私が苗作りをし、後の苗植えは会員で行い、定期的に撒水作業、除草等大切に育てています。今後も、コンクールに参加し花路を飾り、道行く人に楽しんでもらいたいと思っています。

宇野　辰夫さん

学校の部　河内小学校

「最高賞を受賞したのは、前任の校長先生始め花壇づくりにご協力下さった地域の皆さんや全校児童、保護者、先生方の協力のお陰です。」

校長 西山敬子さん

「担当して２年目、今後も児童やＰＴＡ、地域の方々と花作りを通して情操教育をと考えています。花が育ってくると嬉しく、花に声をかけるようになりました。」

教諭　柳橋　正徳さん

常陸太田少年少女合唱団員の募集

当合唱団に入団して楽しく合唱しながら感性を磨いてみませんか。

常陸太田少年少女合唱団の練習にうかがってきました♪

うれしいときや楽しいとき、つい歌を口ずさんでしまいます。歌は楽しさや元気のもとをメロディーと一緒に私たちの運んできてくれます。歌を歌う時、ただメロディー通りに歌うのではなく、その歌の「こころ」を感じ取って歌わないと、歌にこめられた願いは聴いている人たちには届きません。だから、合唱団の子どもたちは歌の練習をするときに、歌の技術だけではなく「言葉をとどける」「人の気持ちをくみとる」練習もしているのです。そうやって練習をつんだ曲を舞台で発表する時、子どもたちの背がぐんと伸びたように見えます。歌の練習を通じて学んだものの大きさがそうさせているのかもしれません。歌が大好きなお友達！集まれ！！

（塩原　慶子）

♪活動内容　市民音楽会、ふれあいコンサート、生涯学習センターフェスティバル、県合唱祭などに参加
♪対　　象　小学2年生以上
♪練習場所　市民交流センター　他
♪練 習 日　毎月原則第1、第3土曜日（午前9時30分～11時30分）
♪会　　費　1ヵ月500円
♪申 込 先　市民交流センター　パルティホール窓口
♪問 合 せ　団長　菊池　尚　TEL　72－3440

学び舎から

地域との交流を図って

常陸太田市立　峰山中学校

峰山中学校は、常陸太田市の南端にあり、まわりを田んぼに囲まれた、全校生徒402名の学校です。

本校の自慢は、「地域」に愛されている学校であるということです。特に、地域の方々からは、「いつも元気なあいさつができて、すばらしいですね」とおほめの言葉をいただいています。

特色のある行事としては、「4校合同講演会」があります。学区内にある西小沢・幸久・佐竹各小学校と合同で講師をお迎えし、峰山中学校を会場に開かれる講演会で、今年度で6回目となります。今年は、スピードスケート元オリンピック代表選手の堀井学氏を講師に「夢への挑戦」というタイトルでお話を聞くことができました。「実体験をもとにした話が聞け、感動した。」と大反響でした。

そして11月には、いろいろな分野で活躍している地域の方々をお呼びして職業についての話を聞く、「地域の人に学ぶ」という行事が1年生対象にあります。自分の仕事に誇りを持って取り組んでいる地域の方々のお話には説得力があり、生徒たちにとってよい刺激となっています。

また、本校は平成16～18年度の3年間、研究推進校となり、「キャリア教育」の研究を行ってきました。「キャリア教育」とは、「望ましい勤労観・職業観」をはぐくむための教育です。

道徳で心を、学級活動で気づきを、総合的な学習の時間で体験をしながら学んでいます。平成19年度は、創立50年目を迎えます。この地域に峰山中があってよかったと言われる学校にしたいと思います。

百姓母ちゃんのたべもの日誌④

ちょっと農天気!

村の行事食

木の里農園　布施（ふせ）　美木（みき）

私の住む集落は、神事を中心とする昔からの年中行事が5～6回ある。その行事等の準備や進行を仕切る人を「世話人」と呼び、集落内の2軒が1年交替制で順番にやっている。今年我が家は初めての世話人。男の人が全体を取り仕切り、女の一番の大仕事は料理だ。

夏の神社の大祭、嵐よけの風祭、冬の愛宕神社の大祭、役の立替などの行事のとき、みんな集落センターに集まって一献を交わすのだが、そこでちょっとした料理をだす。大体のお決まりは、赤飯・煮物・漬け物・つまみ。煮物は大根・人参・ごぼう・芋などの季節のお煮〆に、蕗・ウド・ゼンマイ・筍等の山菜の煮物が定番のようだ。集落の人は、その時期になるととれる旬のものを、大量に塩漬けしてとって置き、年中行事ごとに、炊いたり、煮たりして、一年中味わえるようにしている。しかし、野菜農家で忙しく、山菜をとっている暇も術もない私。赤飯だって自信がない。すると頼みの綱のもう一人の世話人宅のお母さんが察してくれ、一手に引き受けてくれたのでほっとした。

さてそこで、私の作るのは野菜の煮物と漬け物になった。しかし、私は煮物が苦手である。私が作るとできるのは、まっ茶色の見た目よろしくないものばかり。味はともかく、これでは…と思い、早速、隣家のお母さんに入門して、材料持込で一緒に作ってもらった。材料の切り方や、下味のつけ方など、いくつかのポイントをおさえて作ってゆくと、ものの見事に旨そうな煮物が出来上がった。当日、「美味しそうだなあ」なんていわれて、これで日本の母として一歩前進したかと悦に入っていた私。

最初はとても重荷に感じ、時代錯誤にさえ感じた世話人の料理番だったけれど、やってみれば普段では覚えられない貴重な経験の連続だった。料理の支度から、食事の出し方、もてなし方など、時代の変化で伝統行事も風習もどんどん消えてゆく世の中、農村で暮らす女性にとって、地域の行事の食をまかなうことは、料理教室よりよっぽどためになる食文化体験かもしれないと思った。

子育て奮闘記　踊るママパラダイス㉞

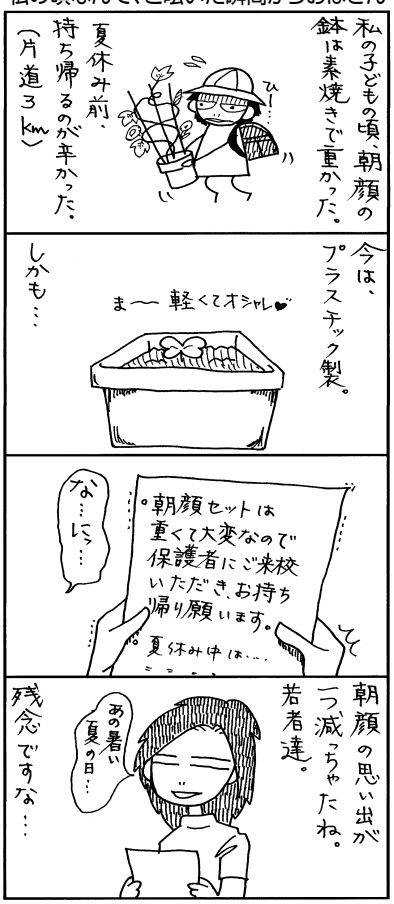
思い出に残る花は何だろうと考えてみると、いくつか思い当たる花の名前があります。まずは金木犀（きんもくせい）。秋に咲くこの花は、姿が見えなくてもその存在が、近くにあることがわかる花です。私がいた看護学校の校門の傍（かたわら）には、見上げるほど背の高い金木犀の木があって、その木の下は、黄色のジュータンの様な、細かい花びらと、むせ返るような甘い香りで満ち溢れていました。そんな季節に、戴帽式（たいぼうしき）をして、自分の将来について、気持ちを新たにした思い出があります。

次に思い出すのは、やはり桜です。といっても、以前、桜を思い出すときは、少し切ない感傷的な気分でした。私の父が、もうすぐ神様のところへ行くころ、病院の外に出ると、あちこちに、この誰もが咲くことを心待ちにしている花が見られました。一粒、一粒落ちていく点滴の涙と、静かな病室に流れる酸素の音を聞きながら、窓から満開の花を、見下ろしていたものでした。ちょうど時期を同じくして治らぬ病を患った母が、一息一息懸命に呼吸する父を見守っていました。その切ない病室のひとこまと、外の華やぎはあまりにもかけ離れていて、目に映る桜を、ただぼんやりと眺めていました。

あれから15年。桜は今、私の気持ちの中で、新しい出会いの花になりました。子ども達が入園・入学するとき、あつらえたばかりの式服や制服を着た彼女たちが、花びらの中を歩いた記憶となり、悲しい花だった桜の花は、嬉しくて、不安で、ソワソワする花になりました。そして、病で苦しんでいた両親の顔の思い出も、いつしか優しい慈愛に満ちた穏やかな顔に変わっていきました。美しい花を見ても美しい花と思えなかった、寂しかった私は、あの時、ギリギリの中で生活していたのです。桜を美しいと感じ、開花を心待ちできる今の私は、幸せなのだと思います。辛いときは泣いて、楽しいときは笑う。そんなあたり前の暮らしができて、幸せなのだと思います。ありがとう。

―― わいわいネット　織田　裕子 ――

私の頃なんて、と呟（つぶや）いた瞬間からおばさん



リレーエッセイ 「思い出の本」 ～33～

（金井町　五十嵐　恵子）

絵本「不思議の国のアリス」は両親からのプレゼントの１つです。ディズニー絵本シリーズの中では「シンデレラ」や「眠れる森の美女」…そう、お姫様の登場するお話が一番好きでした。だって女の子ですもの、綺麗なドレスや宝飾品に、とても憧れるじゃないですか！「何で私は金髪の巻き毛ではないのかしら？」とまで思ったものです。そんな中ちょっと違う…けど、グンッと引き込まれたのが、アリスでした。幼い頃、記憶には全くないけれど、鏡に向かって作詞作曲で歌っていたらしい私は、空想好きで想像力たくましいに決まってます！ちょっと不気味で、ちょっと怖くもある、楽しい不思議な世界に私も踏み込んでみたいと思ったのでした。それからアリスに再会したのは、高校生になってからです。英語の教材に選んだのがアリスでした。絵本より長編なので、さらに不思議な世界が広がっていました。難しかったけれど、楽しいお話のお陰で、何とか読み終えることができた時、先生に「良い本を選んだ」と褒められたのがとても嬉しかったのです。そしてもう１つ、体育の授業での事。グループになって、自分たちだけでダンスを創作し、踊る授業です。私たちは、アース＆ウインド＆ファイヤーの「ブギーワンダーランド」の曲に乗せて「不思議の国のアリス」を発表することにしたのです。放課後、市役所の窓ガラスを鏡にしつつ、みんなで一つになって練習に励みました。ちょっと悔しい思いもしたけれど、言い表せないほど楽しかったし、充実した時間を過ごす事が出来た、とっても素敵な思い出です。現在はというと…この機会を得たことで、そのことに気が付きました。自分の事ながら、常々「どうして、アウトドアが好きなのか？」と思っていたからです。きっと未だに「アリスのように不思議な体験をしてみたい！」と好奇心の火がくすぶっているからなんですね。そしてこれから先、私の心の奥底の好奇心は、年を重ねるたびに徐々に燃え上がり、より一層の火の粉を飛ばして、キラキラしています様に！

（次回は　小沢町　岡部　愛さん）

ちょっとひといき 『木村菓子舗』

～ 草餅・マーガリンどら焼 ～

草餅　90円／マーガリンどら焼　90円

住所　天下野町5543／TEL　87－0856

営業時間　AM7:30～PM7:30

定休日　火曜日／創業　昭和35年

天下野宿坂本の「徳川光圀御成御殿跡」のまん前に立つ木村屋は、地元でも親しまれている和菓子屋さんです。明るい店先には、いつも季節の花が植えられ、数々の和菓子と共にお客を歓迎してくれます。

和菓子といえば「あん」。あんの材料の「小豆」には色々な種類があるのをご存知でしょうか。木村屋さんでは、「こしあん」と「つぶあん」で小豆の種類を使い分けているそうです。「つぶあん」には北海道十勝産の『豊祝（ほうしゅく）』という大粒で皮が柔らかく香りの良い小豆を使用しています。

この季節、木村屋さんいちおしのお菓子は「草餅」です。香り高い生地の中に極上のつぶあん。春を五感で感じられる逸品です。もう一つのおすすめは「マーガリンどら焼」。現当主の木村正明さんが修業を終えて店に戻り考案したのを父親である先代から「邪道だ！」と大層叱られたそうですが、今では、マスコミの取材がくる程の人気商品に。その味には、木村屋親子二代の技と歴史が込められています。

（菊池　幾子）

ほっとひといき ニホンリス

リスの種類はニホンリスのようです。晩秋から春先にかけて朝８時から９時くらいに朝食を採りに来ます。とても警戒心がつよく動作も機敏です。我が家に来るようになったのは、昭和40年代頃からです。山中を歩いていてもなかなか出会うことは、少ないのですが天気がよければ毎日のように我が家の裏の木に来て、榧（かや）の実をおいしそうに食べています。

（藤　馨）

編集後記

フォンズ投稿募集！

今号の「ほっとひといき」コーナーは読者の方の提供による写真・文を掲載させていただきました。同じように皆様からの投稿による記事を取り上げてまいりたいと思います。表紙を飾る「水の思い出」及びその水辺の風景を写された写真など投稿をお寄せください。さらに、動物・昆虫・植物の写真及び紹介文、あるいは「ちょっとひといき」にぴったりなおすすめのお店の情報なども投稿をお待ちしております。掲載させていただくことが決まりました情報については改めてフォンズネットワークからご連絡を差し上げます。なお、お寄せいただいたデータ・写真等につきましては原則として返却いたしませんので、オリジナルの保存をお願いいたします。

（塩原　慶子）

フォンズのバックナンバーはホームページでご覧になれます。
常陸太田市（http://www.city.hitachiota.ibaraki.jp/）→「生涯学習センター」→「情報誌」です。